

平成19年度病害虫発生予報第3号

長崎県病害虫防除所長

【予報の概要】

農作物名	病 害 虫 名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
早期水稲	いもち病（葉いもち） 紋枯病	並 並	並 やや多
水稲共通	ヒメトビウンカ 縞葉枯病 ツマグロヨコバイ 萎縮病 セジロウンカ トビイロウンカ コブノメイガ	やや多 やや多 並 やや少 やや多 並 並	やや多 やや多 並 やや少 やや多 並 並
いちご （育苗床）	うどんこ病 炭疽病 ハダニ類	やや少 並 多	やや少 並 多
かんきつ	かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ アカマルカイガラムシ	並 並 並 並 並 並	やや多 並 多 多 多 並
び わ	がんしゅ病 ナシヒメシンクイ	並 やや多	並 やや多
な し	黒星病 ナシヒメシンクイ	並 やや多	並 やや多
ぶ どう	べと病 黒とう病 チャノキイロアザミウマ	並 並 やや多	並 並 やや多
果樹共通	カメムシ類	少	少
茶	炭疽病 チャノキイロアザミウマ チャノコカクモンハマキ チャノホソガ カンザワハダニ チャノミドリヒメヨコバイ クワシロカイガラムシ	やや少 並 並 並 やや少 やや多 並	やや少 並 並 並 やや少 やや多 並

【発生予報】 本文の（ ）内は平年値

早期水稲

1. いもち病（葉いもち）

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査（41筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

イ 6月3半旬の県予察圃場（諫早市、無防除）調査の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）。

ウ 葉いもちの感染に好適な条件を満たした日が長崎市で6月2、3日、島原市及び口之津町で6月2日に認められた（葉いもち感染好適条件判定モデルによる。詳細はホームページを参照）。

2. 紋枯病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、発生株率は0.0%、発生圃場率は2.4%であった(発生を認めない)。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

ウ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本病の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤は止葉出葉期から出穂期にかけて株元に十分かかるよう丁寧に散布する。

水稲共通

1. ヒメトビウンカと縞葉枯病

(1) 予報内容

発生程度 ヒメトビウンカ やや多
縞葉枯病 やや多

(2) 予報の根拠

ア 5月中下旬の小麦圃場及びイネ科雑草地(18地点、1地点当たり3~5圃場)におけるヒメトビウンカ(第1世代)の生息密度は、捕虫網による20回すくい取りあたり14.4頭(9.3頭)であった(図、表)。

イ イネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率検定(ラテックス凝集反応法)の結果、保毒虫率は2.2%(1.2%)であった(図、表)。

ウ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるヒメトビウンカの株当たり虫数は0.2頭(0.0頭)、発生圃場率は43.9%(14.0%)であった。縞葉枯病の発生株率は0.0%、発生圃場率は2.4%であった(発生を認めない)。

エ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、ヒメトビウンカの株当たり虫数は0.1頭(0.0頭)、縞葉枯病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 今後、移植する圃場ではウンカ類に効果のある箱処理剤を施用する。施用時は所定量を丁寧に散布する。

イ 発病株を認めた場合は直ちに抜き取り処分する。

ウ 本田でのヒメトビウンカの発生状況に注意する。

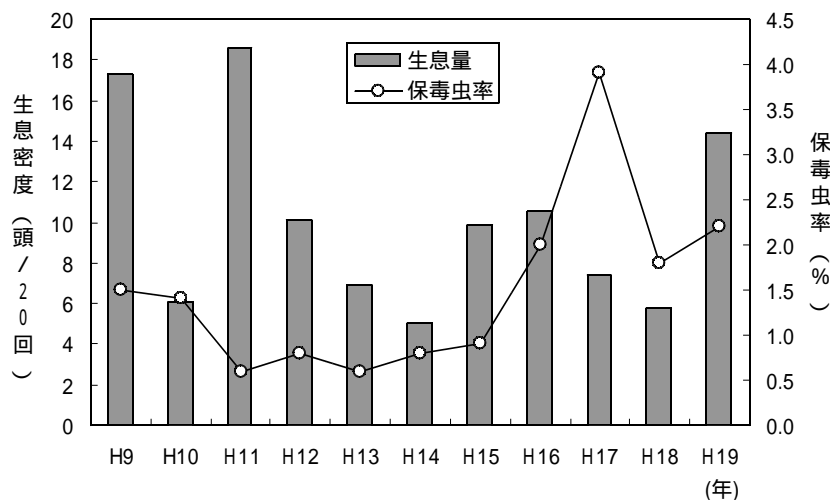


図 ヒメトビウンカ(第1世代)の生息量密度及びイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率の推移

表 各地点のイネ縞葉枯ウイルスの保毒虫率と生息密度

調査地点	検定虫数(頭)	保毒虫率(%)	生息密度 ^{注)}
長崎市琴海戸根	28	7.1	1.9
西海市大瀬戸	62	1.6	4.1
諫早市小野	150	3.3	30.6
諫早市森山	150	2.7	46.3
諫早市多良見町大草	16	0	0.5
諫早市多良見町西川内	150	2.0	23.5
諫早市小船越	100	0	5.8
大村市鈴田	72	4.2	30.2
東彼杵町三根	107	0	21.0
雲仙市吾妻町干拓	150	0.7	8.9
雲仙市国見町神代	150	1.3	78.6
佐世保市長畑	25	12.0	1.1
佐世保市早岐	40	2.5	2.8
松浦市志佐	20	0	1.9
平戸市紐差	34	5.9	1.3
五島市本山	-	-	0
五島市富江	-	-	0
壱岐市郷ノ浦町大原	-	-	0
合計(平均)	1254	2.2	14.4
平年 ^{注)}	-	1.2	9.3

注) 生息密度は20回すくい取り当たりの頭数
 保毒虫率検定はラテックス凝集反応法による
 平年は平成9～18年の最大・小値を除いた平均

2. ツマグロヨコバイと萎縮病

(1) 予報内容

発生程度 ツマグロヨコバイ 並
 萎縮病 やや少

(2) 予報の根拠

- ア 5月中下旬のイネ科雑草地(3地点)から採集したツマグロヨコバイ(第1世代)についてイネ萎縮ウイルスの保毒虫率検定を行った結果、保毒虫率は0%(0.1%)であった。
- イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は0.4頭(0.1頭)、発生圃場率は19.5%(42.8%)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、無防除)調査の結果、早期水稲におけるツマグロヨコバイの株当たり虫数は3.2頭(1.5頭)であった。萎縮病の発生は認めなかった(発生を認めない)。

3. セジロウンカ、トビイロウンカ

(1) 予報内容

発生程度 セジロウンカ やや多
 トビイロウンカ 並

(2) 予報の根拠

- ア セジロウンカは、5月5日に予察灯(諫早市)で誘殺を初確認した。その後、5月24～25日にかけて飛来が認められた。
 トビイロウンカは、6月14日現在でネットトラップ及び予察灯での誘殺を認めていない。
- イ 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稲におけるセジロウンカの株当たり虫数は1.5頭(0.1頭)で、若～中齢幼虫が主体であった。発生圃場率は75.6%(34.0%)であった。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。
- ウ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稲、無防除)調査の結果、セジロウンカの株当たり虫数は5.0頭(0.5頭)で、若～中齢幼虫主体であった。トビイロウンカの発生は認めなかった(発生を認めない)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

4. コブノメイガ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(41筆)の結果、早期水稻において食害株及び幼虫の発生は認めなかった(発生を認めない)。成虫の10m²当たり虫数は0.0頭(0.0頭)、発生圃場率は5.4%であった。

イ 6月3半旬の県予察圃場(諫早市、早期水稻、無防除)調査の結果、食害株及び成・幼虫の発生は認めなかった(食害株率0.3%、10m²当たり成虫数0.0頭)。

(3) 防除上注意すべき事項

今後の飛来状況に注意する。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、発病株率7.2%(21.4%)、発生圃場率36.4%(70.8%)であった。

2. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、*C. acutatum*(通称:葉枯炭疽病)の発生は認めなかった(発病株率0.2%、発生圃場率4.1%)。また、*G. cingulata*の発生も認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率1.4%)。

3. ハダニ類(ナミハダニ、カザリハダニ)

(1) 予報内容

発生程度 多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(33筆)の結果、寄生株率5.1%(1.3%)、発生圃場率30.3%(12.7%)であった(図)。

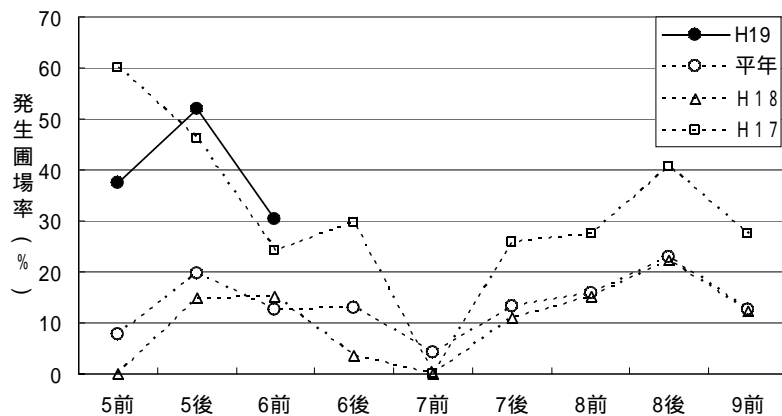


図 いちごハダニの発生圃場率の推移(巡回調査)

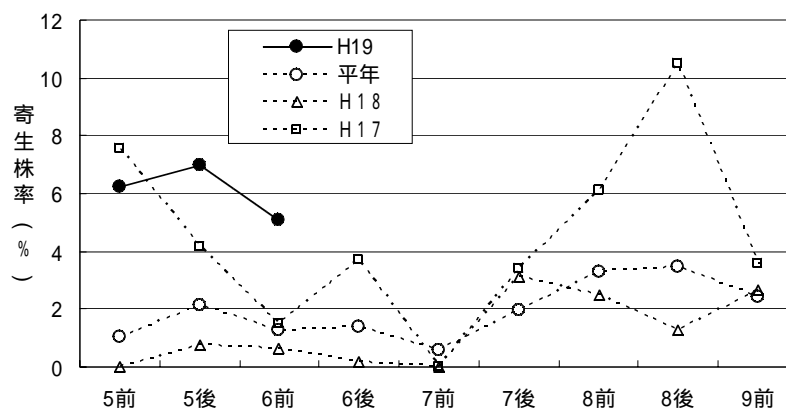


図 いちごハダニの寄生株率の推移(巡回調査)

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 多発ほ場では、早めの薬剤防除を徹底する。
- イ 薬剤散布は散布むらがおこらないように、葉裏まで付着するように十分量を丁寧に散布する。
- ウ 薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

かんきつ

1. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発病葉率は0.1%(0.3%)、発生圃場率は7.7%(10.3%)であった。
- イ 越冬病斑は平年より多い。

(3) 防除上注意すべき事項

発生が多い圃や耐病性が弱い品種では、幼果期に薬剤を散布する。

2. 黒点病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%発生圃場率0.7%)。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 6月上旬の巡回調査(39筆)の結果、寄生葉率は10.2%(11.8%)、発生圃場率は53.8%(47.4%)であった。
- イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性が低下しやすいので、同一薬剤は連用しない。

4. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

- ア 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並に推移している(図)。
- イ 向こう1か月の気温は平年より高い見込みであり、本虫の発生に好適である。

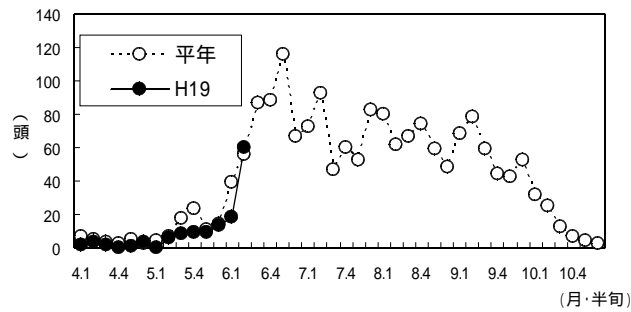


図 チャノキイロアザミウマの誘殺状況(諫早・黄色粘着トラップ)
平年は平成9～18年の平均

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 下表の予測発生ピーク日5日前からピーク日の間に薬剤散布をすると防除効果が高い。
- イ ただし、発生が多い園では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。
- ウ 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる成虫の予測発生ピーク日

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川
第3世代	7/1	6/29	7/4	6/28	6/30	7/1	6/29	6/26
第4世代	7/19	7/18	7/23	7/17	7/19	7/20	7/17	7/15

注1：プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュを利用した。

注2：平成19年6月14日現在で予測し（1月1日～6月13日まで実測値）、6月14日以降のデータは過去10年間の平均値を利用した。

注3：発生ピーク日は各地区の選果場（佐世保は旧選果場）がある地点で算出している。同一地区内の山間部では、表より10日～2週間程度遅れる。

5. ヤノネカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査（39筆）の結果、発生を認めなかった（発生を認めない）

(3) 防除上注意すべき事項

各地区の有機リン剤による防除適期は、下表のとおりである。防除適期を過ぎている地域では、早急に薬剤散布を行う。

表 ヤノネカイガラムシの防除適期

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川
防除適期(有機リン剤)	6/14	6/13	6/16	6/14	6/15	6/16	6/15	6/12

注1：ながさき農林業情報システム病害虫発生メッシュを利用して予測した。

注2：初発日は各地区の選果場（佐世保は旧選果場）がある地点で算出し、有機リン剤の防除適期はその40日後とした。

注3：同一地区内の山間部では、表より1週間程度遅れる。

6. アカマルカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

昨年11月に実施した温州みかん果実の病害虫発生状況調査の結果、被害果率は1.1% (1.9%)であった。

びわ

1. がんしゅ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発病枝葉率は0.5% (2.1%)、発生圃場率は30.0% (48.3%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(10筆)の結果、発生を認めなかった(寄生枝葉率0.0%、発生圃場率1.3%)。

イ フェロモントラップ(諫早市)での誘殺量は平年よりやや多く推移している(図)。

(3) 防除上注意すべき事項

食入口ががんしゅ病の感染拡大の要因となるのでがんしゅ病と同時に防除する。

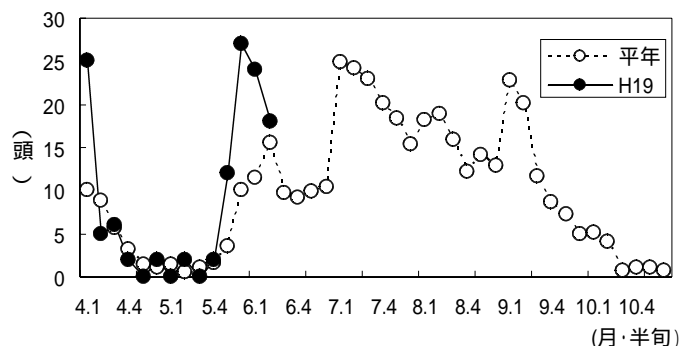


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早:フェロモントラップ)
平年値は平成9~18年の平均

なし

1. 黒星病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は0.3% (1.4%)、発生圃場率は58.3% (28.7%)、発病果率は0.0% (0.2%)、発生圃場率は8.3% (7.3%)であった。

2. ナシヒメシンクイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

フェロモントラップ（諫早市）での誘殺量は平年よりやや多く推移している（びわの欄参照）。

（３）防除上注意すべき事項

ア 第２世代の成虫の発生ピークは、諫早市で６月６半旬～７月１半旬頃と予想され、平年より１～２半旬程度早い。ピーク日～その１０日後に薬剤散布すると防除効果が高いので７月１～２半旬ころが防除適期と考えられる。

イ 多発生時は残効が長い合成ピレスロイド剤が有効であるが、ハダニ類やカイガラムシ類の多発を引き起こすことがあるので注意する。

ぶどう

１．べと病

（１）予報内容
発生程度 並

（２）予報の根拠
６月上旬の巡回調査（１２筆）の結果、葉での発生は認めなかった（発病葉率０．１％、発生圃場率４．１％）。また、果房での発生は認めなかった（発病果房率０．０％、発生圃場率０．８％）。

２．黒とう病

（１）予報内容
発生程度 並

（２）予報の根拠
６月上旬の巡回調査（１２筆）の結果、発病葉率は０．２％（０．３％）、発生圃場率は３３．３％（１１．５％）であった。また、果房での発生は認めなかった（発病果房率０．０％ 発生圃場率０．８％）。

３．チャノキイロアザミウマ

（１）予報内容
発生程度 やや多

（２）予報の根拠
ア ６月上旬の巡回調査（１２筆）の結果、被害果房率１．６％（０．０％）発生圃場率２５．０％（２．１％）であった。
イ 黄色粘着トラップ（諫早市）による誘殺量は、平年並に推移している（かんきつの欄参照）。

果樹共通

カメムシ類

（１）予報内容
発生程度 少

（２）予報の根拠
ア 各地区のフェロモントラップ及び予察灯の誘殺量は平年より少なく推移している（図）。
イ 越冬量は平年より少ない。

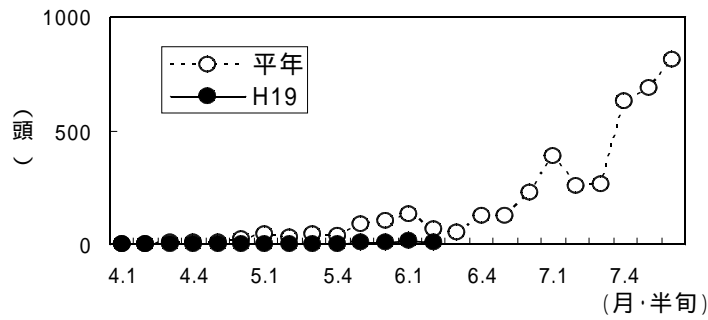


図 チャバネ・ツアアカムシの誘殺状況(諫早:黄色コナネコル)
平年値は平成11～18年の平均

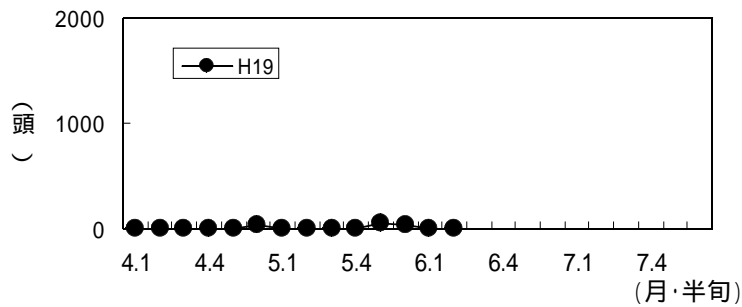


図 チャバネ・ツアアカムシの誘殺状況(西彼:黄色コナネコル)

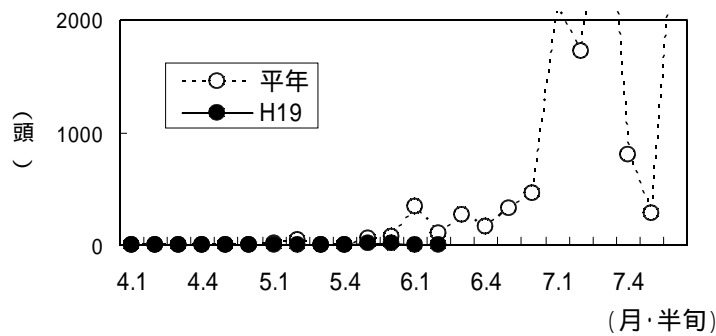


図 チャバネ・ツアアカムシの誘殺状況(多良見:黄色コナネコル)

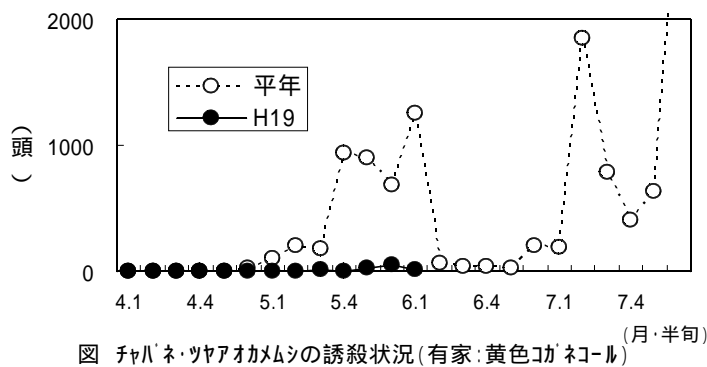


図 チャバネ・ツアアカムシの誘殺状況(有家:黄色コナネコル)

茶

1. 炭疽病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、発生を認めなかった(1㎡あたり発病葉数は3.2枚、発生圃場率は40.0%)。

2. チャノキイロアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は9.7頭(16.2頭)、発生圃場率は80.0%(83.0%)であった。

3. チャノココクモンハマキ

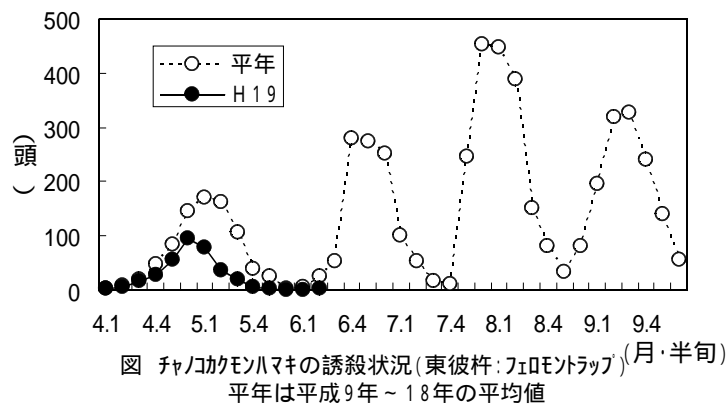
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.1枚(0.1枚)発生圃場率は5.0%(9.5%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年よりやや少なく推移している(図)。



4. チャノホソガ

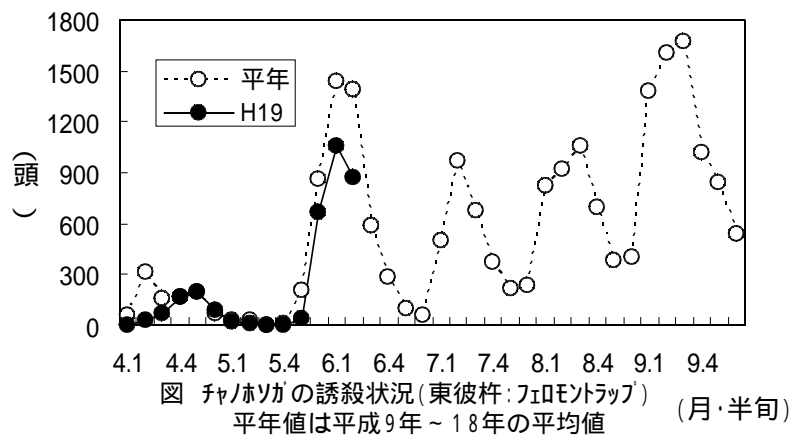
(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、1㎡あたり巻葉数は0.0枚(0.1枚)、発生圃場率は15.0%(3.3%)であった。

イ フェロモントラップによる誘殺量(東彼杵茶業支場調査)は平年よりやや少なく推移している(図)。



5. カンザウハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生葉率は0.1%(1.6%)、発生圃場率は5.0%(19.9%)であった。

6. チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、たたき落とし虫数(A4版トレイに5回×4カ所)は3.3頭(1.0頭)、発生圃場率は70.0%(29.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

発生が多い圃場では、二番茶摘採後の防除に努める。

7. クワシロカイガラムシ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

6月上旬の巡回調査(20筆)の結果、寄生株率は8.6%(9.8%)、発生圃場率は35.0%(34.7%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 今後、第2世代の防除時期となるので下記のふ化最盛期予測日前後に薬剤散布を行う。なお、独自にふ化最盛期日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

イ 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化最盛期予測日(第2世代)

地区名	東彼杵 赤木	東彼杵 太の原	世知原 板山	世知原 木浦原	五島 大津
平成19年	7/18	7/26	7/31	7/24	7/11
平年	7/18	7/26	8/1	7/23	7/16

注1: ふ化最盛期予測日は「有効積算温度則による防除適期予測法(東彼杵茶業支場)」により算出した。

注2: 使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュ気象データを利用した。

注3: 平成19年6月13日現在で予測し(1月1日~6月13日まで実測値)、6月14日以降のデータは過去10年間の平均値を利用した。

注4: 平年値は過去10年の平均値による。

注5: 第2世代の予測値は、現地調査によるふ化最盛期日以降の有効積算温度によるものである。

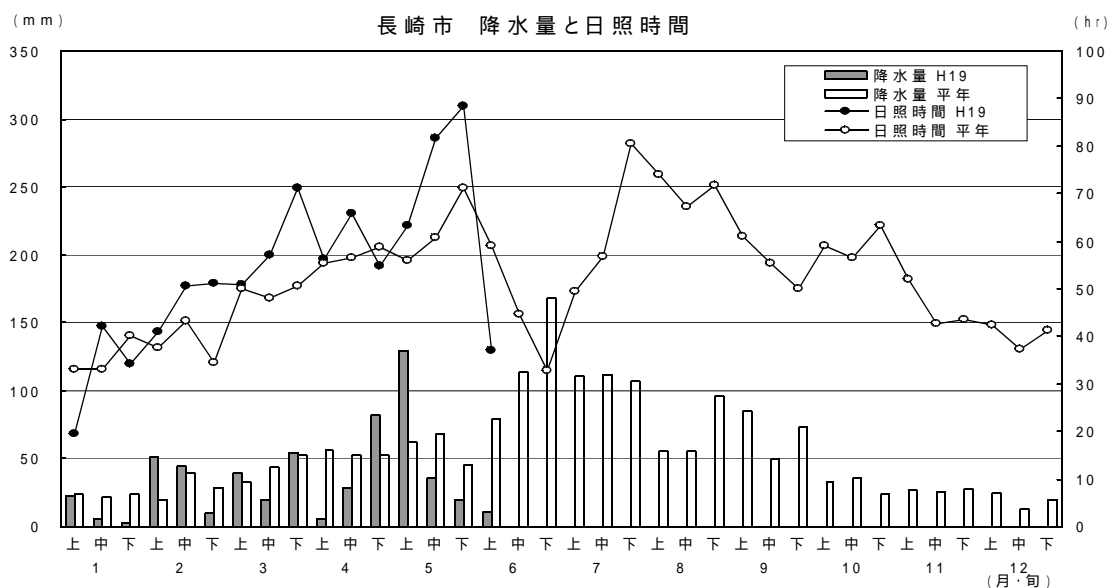
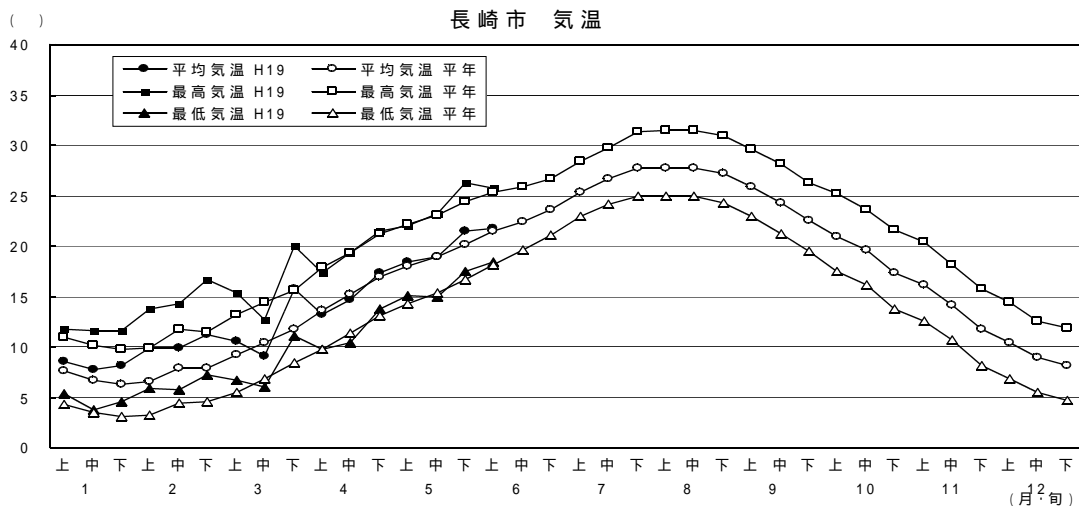
【参考】

気象（平成19年6月15日発表 1か月予報 福岡管区气象台）

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	40	30	30
日照時間	30	30	40

予報対象地域：九州北部地域



「農薬使用基準の遵守について」
 農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。

文中の市町村名は合併前で表記しています。

病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

「防除所ホームページ」を利用して、ながさき農林業総合情報システム（一部会員制）
 アドレス：<http://www.n-nourin.jp/>やその他の情報を閲覧することができます。

この情報に関するお問い合わせは、電話またはEメールでお願いします。

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027， Eメール：kngs0301@sp.jppn.ne.jp